

都竹市長の市政定期便「ほっとライブひだ」

【第2回のテーマ：飛騨市・広葉樹のまちづくり】



令和2年9月1日
飛騨市図書館「にじのひろば」

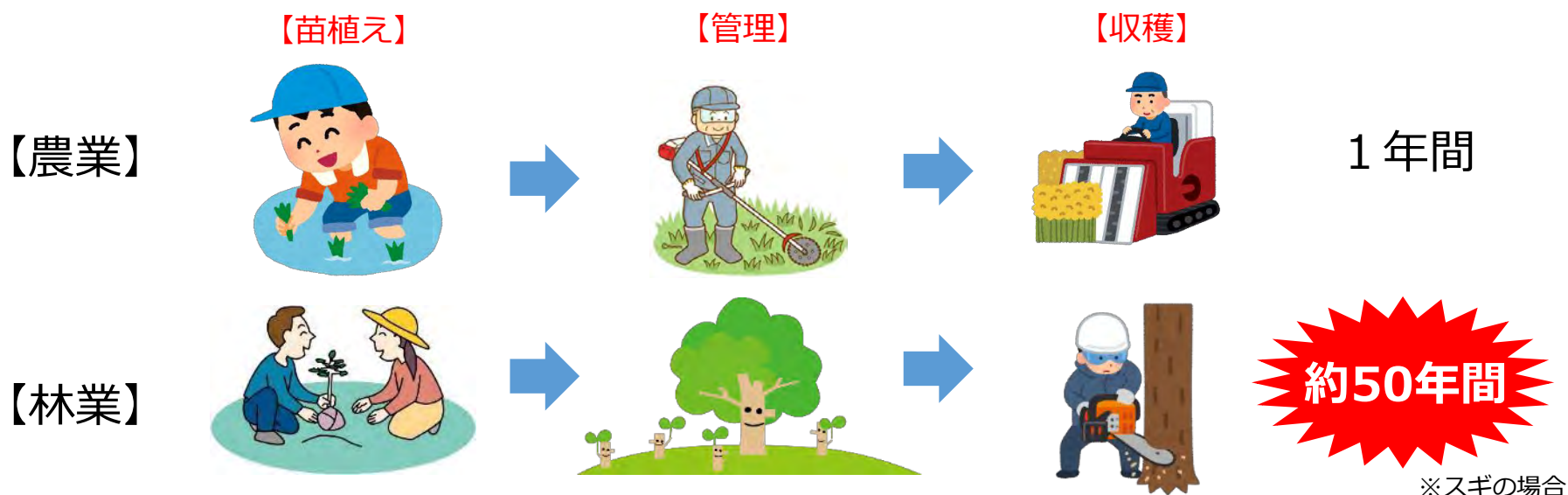
ところで「林業」とは…

林業【りんぎょう】

森林を育て、木材を得る産業。広義には、木炭製造やキノコの栽培をも含める。

(大辞林より)

「農林業」とひと括りにされる場合も多いですが、実は農業と林業では決定的な違いがあります。それは…



林業の場合、収穫までにおおよそ50年間という長い時間が必要 (スギの場合)

(ブナやナラなどの広葉樹は80～100年)

林業の現場と伐った木の行方

伐 採
(チェーンソー等)



集材・造材
(プロセッサ・タ
ワーヤード等)



運 搬
(フォワーダ等)



仕分け・積み込み
(中間土場・土場)



出 荷



飛騨市内で行われている伐採の種類

飛騨市内では主に以下の手法により森林の伐採がおこなわれています。

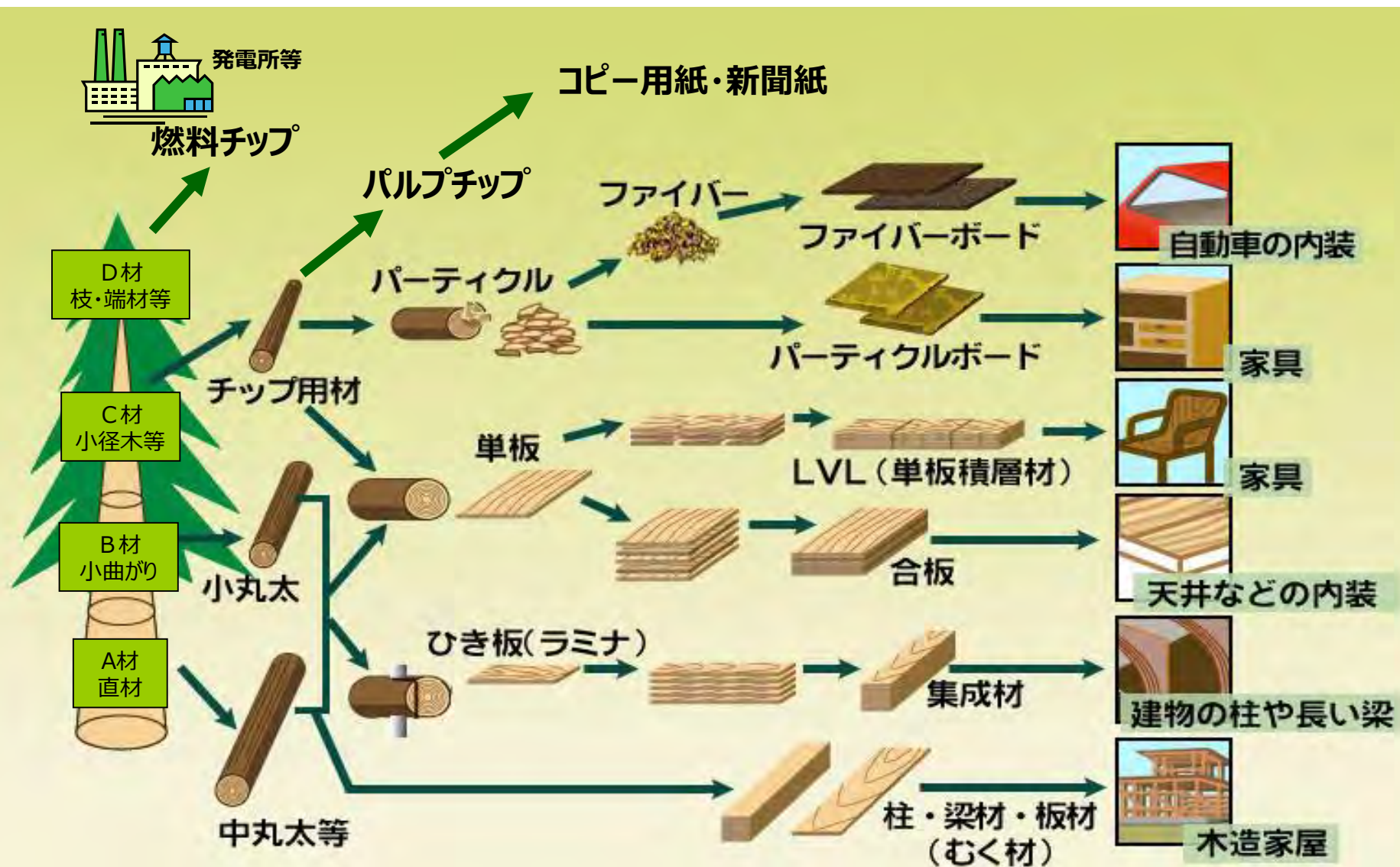
間伐 … 植林後、一定期間が経過し、混み合ってきた木々の一部を抜き伐る間引き作業のことを指します。間伐は森の木の生長を促し、森を豊かにするために行われる作業です。



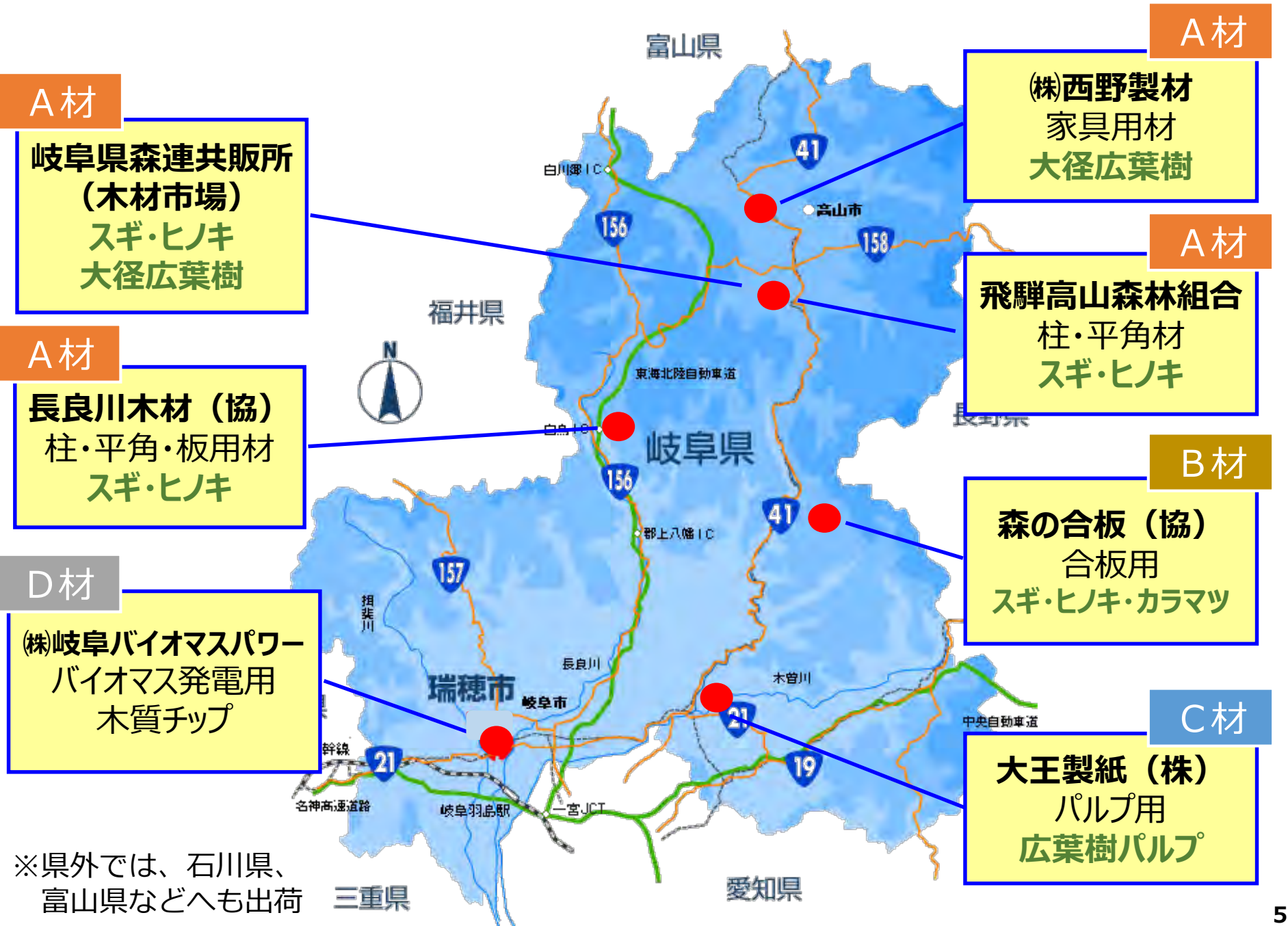
皆伐 (収穫) … 対象となる森林の樹木を全て伐採する作業です。林業、特に針葉樹では、収穫の目標年月に達したときに皆伐し、その後に新しい植林がおこなわれます（再造林）。広葉樹では、主に周囲の樹木から自然に落下した種子から稚樹を発生させ、森の更新をはかる手法（天然更新）が行われています。樹木がなくなるため、大規模な皆伐は森林生態系への影響や土砂流出などの災害を誘発させる可能性があります。

伐った木を無駄なく使うために（カスケード利用）

森林で伐られた木は、その形状や質によってA～Dまでランク付けされ、用途に応じて様々なところに出荷されます。



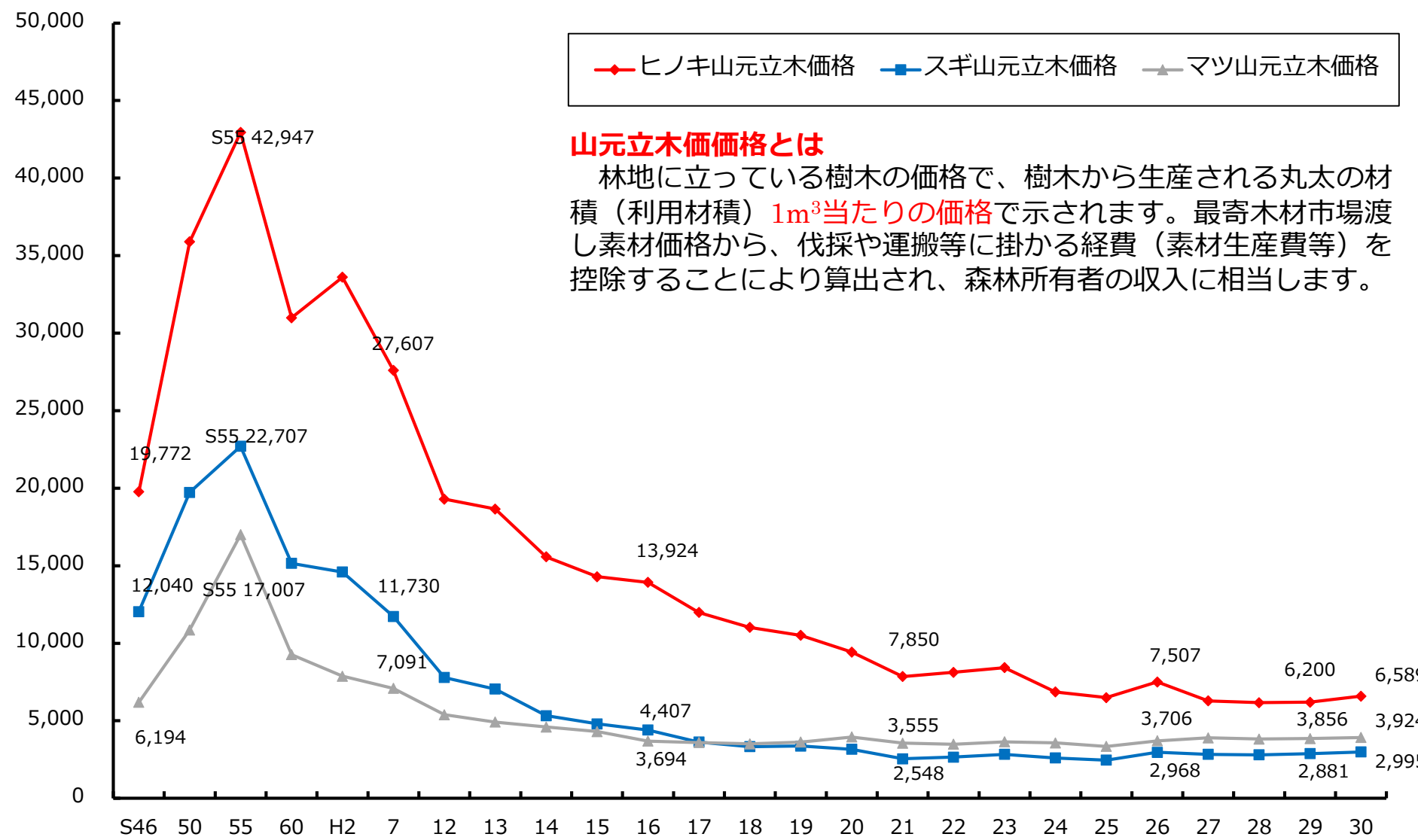
県内の主な出荷先（飛騨市森林組合の場合）



※県外では、石川県、
富山県などへも出荷

日本の林業の過去と現在

針葉樹の全国平均山元立木価格の推移



飛騨市の森林の特徴

岐阜県内で広葉樹の割合の高い地域（国有林を除く）

順位	自治体名	広葉樹割合 (%)
1	白川村	87.9
2	飛騨市	
3	揖斐郡	66.5
4	本巣市	55.2
5	養老郡	53.8
6	高山市	52.8
7	大垣市	52.0
8	海津市	46.0
9	瑞浪市	40.6
10	郡上市	39.5
参考	全国	47

※岐阜県森林・林業統計より

飛騨市は、 %の森林のうち、68%を
広葉樹が占めるという特徴を有します。

これらミズナラやブナに代表される豊富な森
林資源と「飛騨の匠」の高い技術により、高
山市・飛騨市を中心に日本の家具産地の一つ
を形成しています（飛騨家具）。



飛騨市河合町天生にあるブナ林

森林にある木の違い

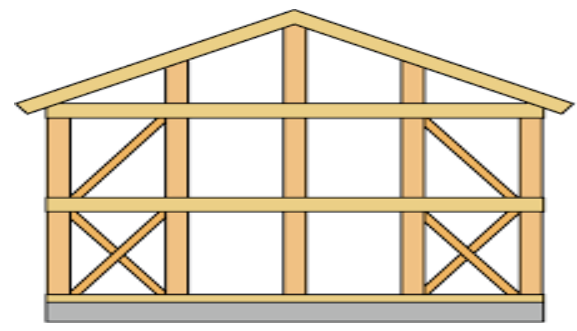


しんようじゅ
針葉樹

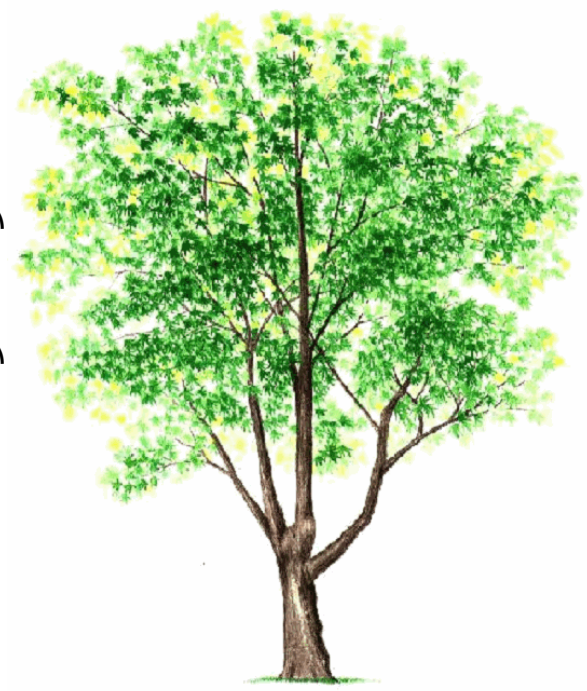
まっすぐに成長が早い
やわらかい木が多い
冬でも葉が落ちない
人が植えたものが多い



針葉樹の葉っぱ



主に家の柱などに使われます

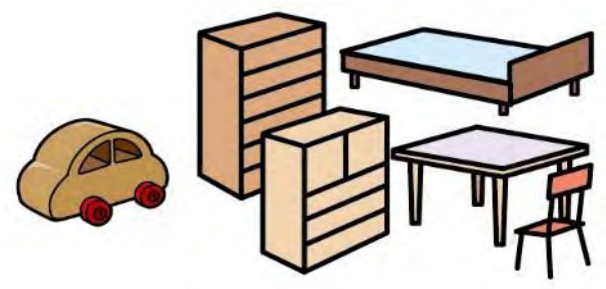


こうようじゅ
広葉樹

枝や葉が横に広がる
かたい木が多い
冬には葉っぱが落ちる
自然に生えたものが多い



広葉樹の葉っぱ



主に家具やオモチャなどに使われます

なぜそうなのか（広葉樹活用の難しさ）



平成28年度広葉樹資源活用モデル事業により、市有林から伐り出された広葉樹材。その多くは製材すら困難な小径木であった。

飛騨市が平成28年度に実施した市内民有林を対象にした資源量調査によれば、市内にはミズナラやブナ中心とした豊富な広葉樹資源がある一方、その多くは平均胸高直径が26 c m程度であることも判明しました。これは、一般的に考えれば、市内の広葉樹は主にパルプ・チップ、または薪にしかないという評価です。

広葉樹資源への着目と課題

森林面積は74,028ha うち、民有林は56,360haと広大
そして、**民有林の約 68%がミズナラやブナを中心とした広葉樹**

(飛騨市で伐採される広葉樹の流れ)



主に経済利用されるのは森林の約 3 割を占める針葉樹人工林
一方で 7 割を占める広大な広葉樹林から伐り出される材は、
そのほとんどがチップ用材として安価で市外へ流出しています

豊富な広葉樹資源の持続可能な活用に向けた基本的考え方

飛騨市型広葉樹活用体系の確立にむけて、

今後取り組むべき2つの柱

①小径広葉樹の新しい価値を創造する

これまでにないアイデアやネットワーク等を活用することで、いまある「使えない」「チップにしかない」と言われる小径広葉樹に新しい価値を吹き込み、チップなどより高い価格で販売する

②価値ある広葉樹を育てる

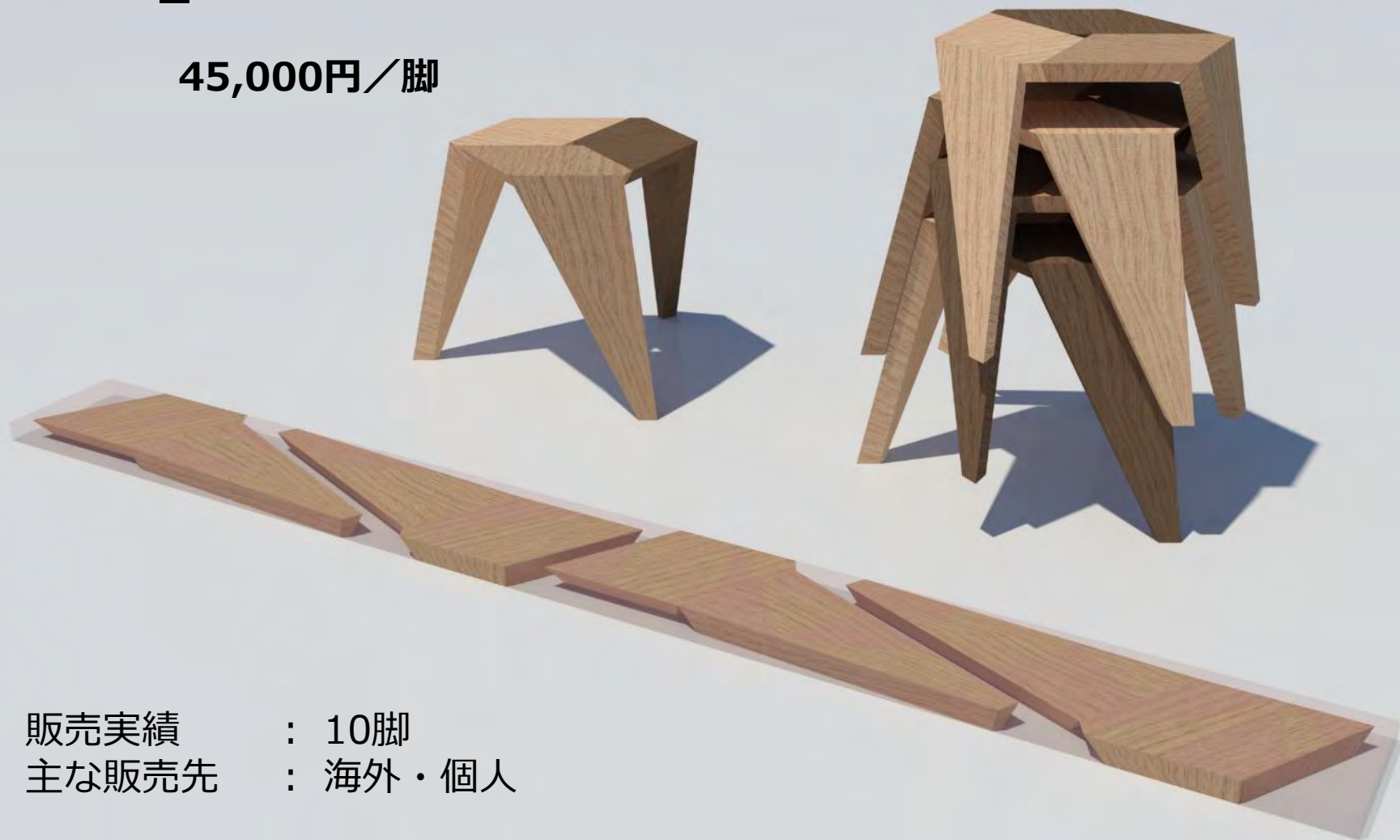
いまある針葉樹人工林を最大限に活用しながら利益を確保する一方で、広葉樹が用材として利用が可能となる目標到達期に向け、多様で価値ある広葉樹を育てる

小径広葉樹の活用事例

【家具・什器類】

SLANT_STOOL

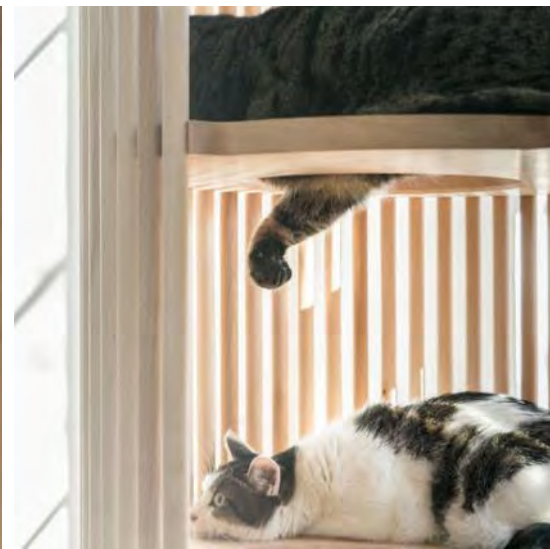
45,000円／脚



販売実績 : 10脚
主な販売先 : 海外・個人

小径広葉樹の活用事例

【家具・什器類】



Modern Cat Tree “NEKO”

1,000,000円／台

販売実績 : 10脚
主な販売先 : 海外・個人

小径広葉樹の新しい価値を創造する



株式会社飛驒の森でクマは踊る（通称「ヒダクマ」）の設立

これまで難しかった小径広葉樹の活用に必要な新しいアイデアやノウハウ、ネットワークを有する民間企業2社とともに法人を設立。これにより、国内外を問わず様々なクリエイターとのコラボレーションにより、これまでにない価値の高い木製品の企画・製作・販売が可能に。

株式会社飛驒の森でクマは踊る



出資比率：13.5%

（設立時：25%）



出資比率：54.0%

（設立時：25%）



出資比率：32.5%

（設立時：50%）

都市部へのチャネルを活用した新たな商品（上記）の販売と林業・木材流通の新たな仕組みづくりを行う。

国内外のクリエイターネットワークを活用し、小径木による新たな商品を世界のものづくり人材や異業種との交流により生み出す（デザインする）。

豊かな森林資源（広葉樹）と高い木工加工技術により持続可能な地域づくりを目指す。市有林約20haも現物出資。

アイデアの共有・活用を可能にする拠点の確保

FabCafe
what do you fab?

FabCafeHidaは、ヒダクマが経営するカフェ、木製品加工、木製品開発、滞在（宿泊）、イベント開催等の機能を有したクリエイティブな空間です。



(世界とつながるFabCafeネットワーク)

- ①FabCafe Tokyo (日本) ②FabCafe Kyoto (日本) ③**FabCafe Hida** (日本) ④FabCafe Nagoya (日本)
⑤FabCafe Taipei (台湾) ⑥FabCafe Toulouse (フランス) ⑦FabCafe HongKong (中国)
⑧FabCafe Barcelona (スペイン) ⑨FabCafe Strasbourg (フランス) ⑩FabCafe Monterrey (メキシコ)
⑪FabCafe KualaLumpur (マレーシア) ⑫FabCafe Bangkok (タイ)

小径広葉樹の活用事例

【空間・内装木質化（リノベーション）】



Neos Sapporo Developers Park (2019 札幌市)

事業費：20,000千円

飛騨市（地域）産材活用材積：3m³

小径広葉樹の活用事例

【空間・内装木質化（リノベーション）】

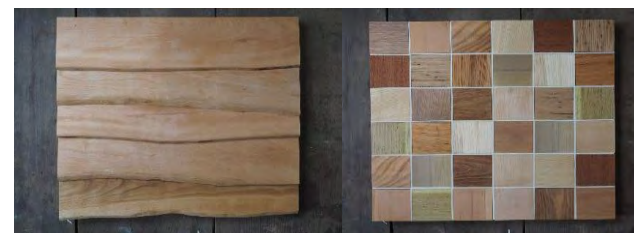
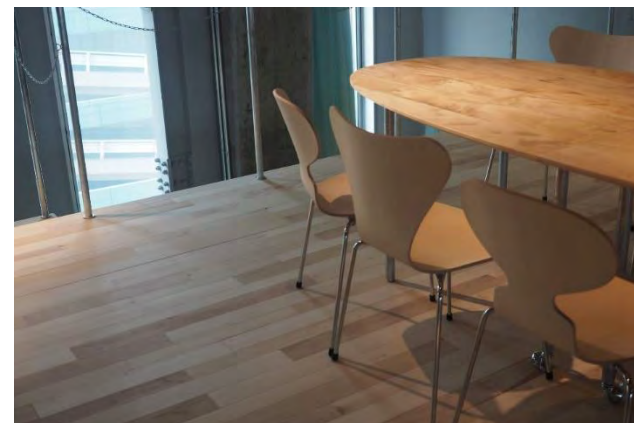
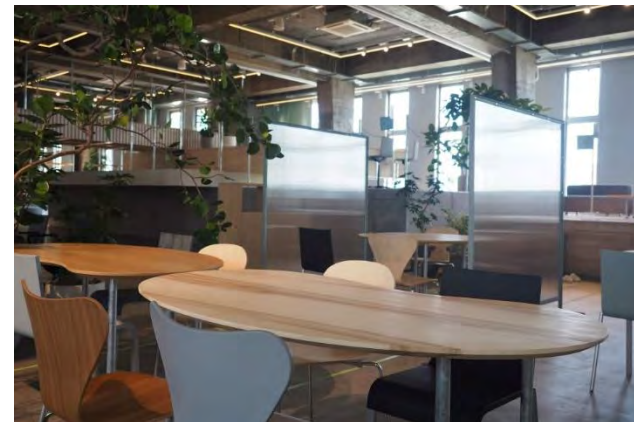


©Kenta Hasrgawa

鈴与株式会社 本社5階CODO (2019 静岡市)

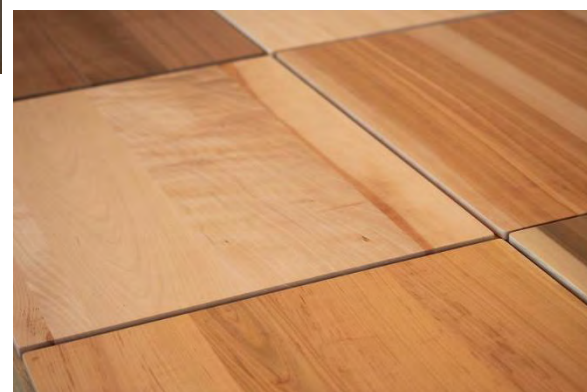
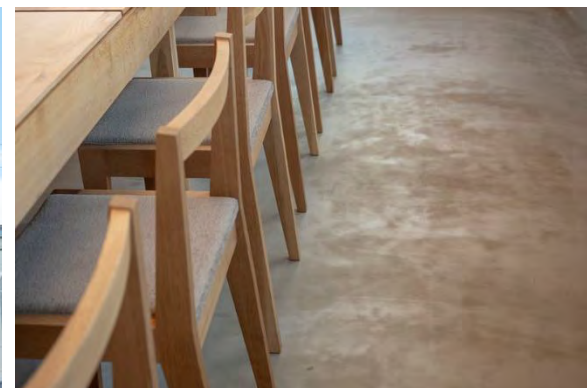
事業費：40,000千円

飛騨市（地域）産材活用材積：5m³



小径広葉樹の活用事例

【空間・内装木質化（リノベーション）】



飛騨市役所 1階 応接室 (2019)

事業費：5,000千円

飛騨市（地域）産材活用材積：0.5m³

小径広葉樹の活用事例

「ひだ木（ギ）フト」プロジェクトの発足



ひだ木フト

小径木広葉樹を使った新しい木製品の企画・製作・販売を行うプロジェクト。川上（森林）から川下（製作・販売）が繋がった、これまでの飛騨市にはないプロジェクト。これにより、飛騨市産広葉樹を活用した木製品を飛騨の職人の手で作り出すことが可能に。



8,000円（税別）
※2枚組



4,000円（税別）



6,000円／枚（税別）



13,000円（税別）



4,000円／本（税別）

広葉樹のまちづくりに向けたさらなる取り組みに向けて



小さなまちだからこそできる 川上～川下の連携

(左上) 広葉樹のまちづくり円卓会議

(右上) 広葉樹のまちづくりセミナー

(左下) 広葉樹活用先進事例研究（視察）

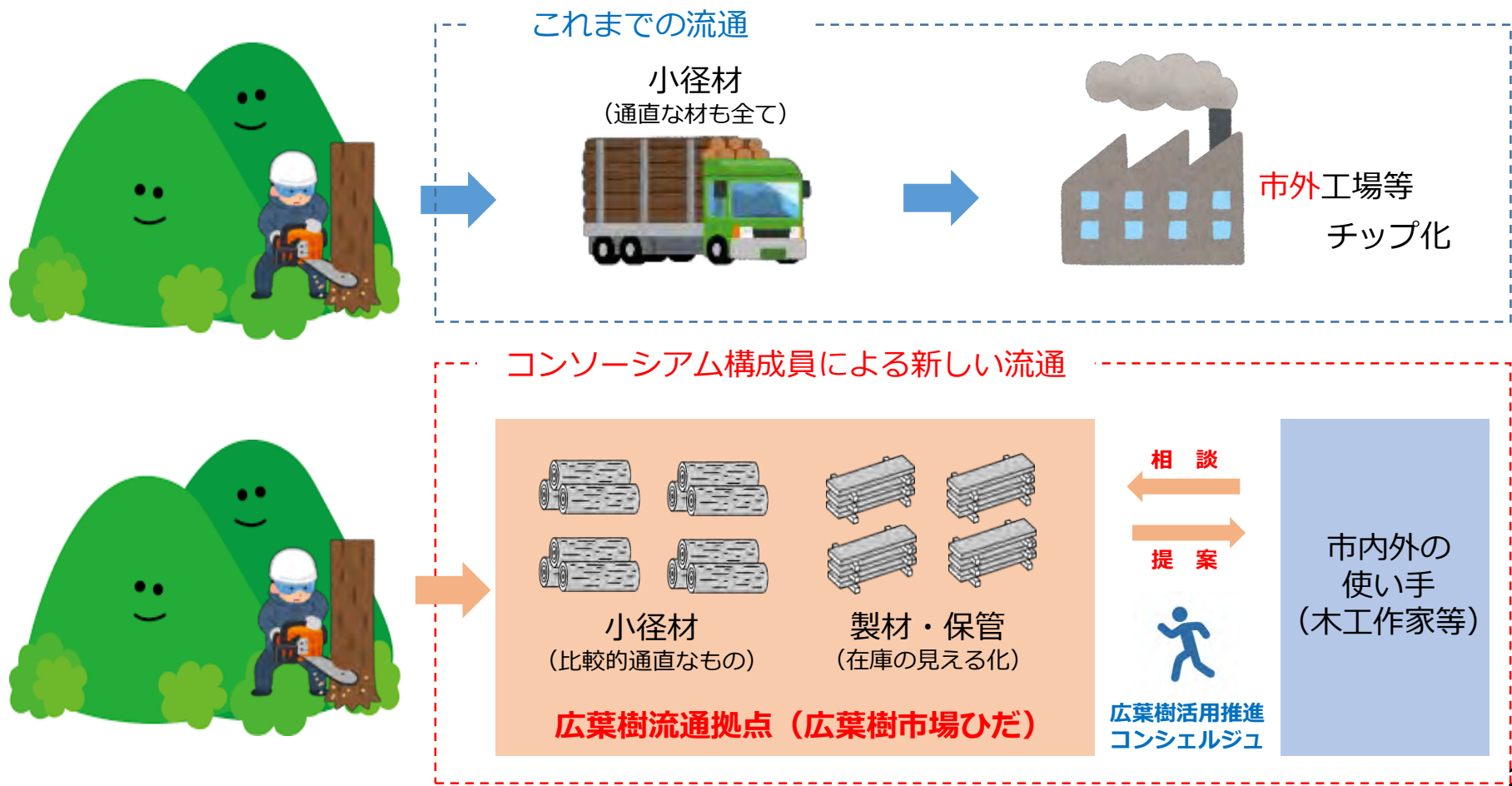


**広葉樹のまちづくりの一層の推進に
必要なアクションプランの策定**

令和2年度の新たな取り組み

飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアムの設立

取り組みの趣旨に賛同する市内及び飛騨地域の関係事業所（素材生産、製材、木製品企画・開発、製造、販売等、建築等）16社と行政（市）により設立。これにより、これまで山から直接市外に安価で流出していた小径広葉樹を市内に留め、川下（使い手）にダイレクトにつなぐことが可能となりました。



令和2年度の新たな取り組み

広葉樹流通拠点施設（広葉樹市場ひだ）



令和2年度の新たな取り組み

小径材の曲がり部分・枝等を活用した新たな商品の開発

小径広葉樹 1 本からとれる用材の割合は 1 割程度と言われるため、残り 9 割を占めるチップにしかない曲がり部分、枝、樹皮等を活用した新しい商品の開発を行うことで小径広葉樹 1 本の価値を上げ、山側への還元を目指します。

【実施主体】

飛騨広葉樹活用研究ワーキンググループ

飛騨市



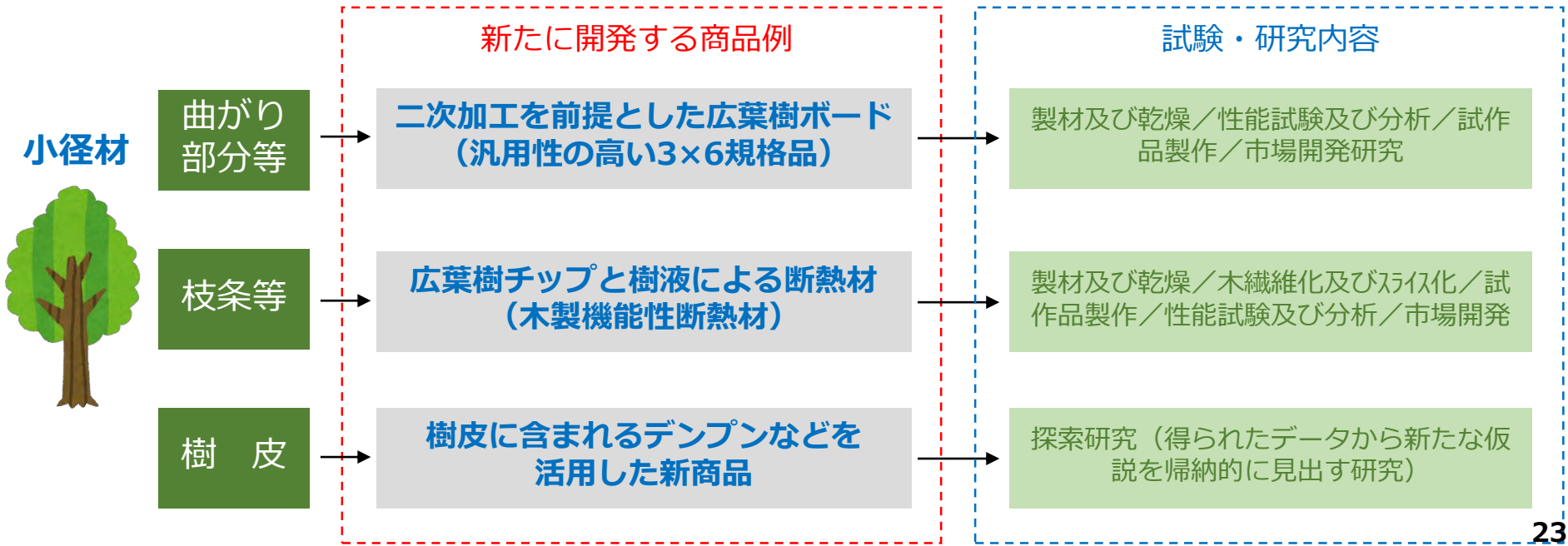
飛騨地域関連企業

木製品企画販売事業所／木工事業所
／製材事業所 等



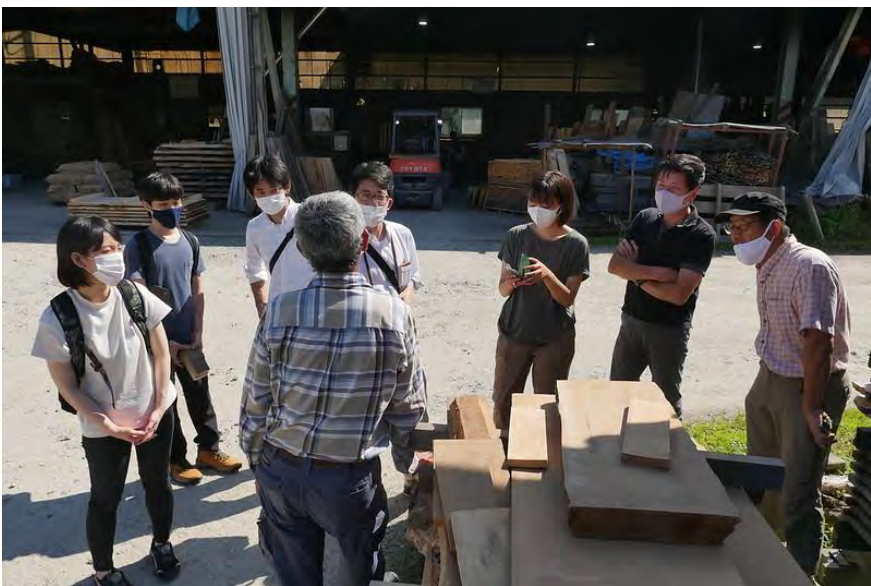
京都大学
岐阜大学

岐阜県生活技術研究所



令和2年度の新たな取り組み

飛騨市・広葉樹のまちづくりツアーの開催



飛騨市・広葉樹のまちづくりツアー2020 in summer

募集要
今年度は終了しました
【満員御礼】

(第1回目) 7月24日 (土) ~ 25日 (日)

(第2回目) 8月9日 (土) ~ 10日 (日)

飛騨市・広葉樹のまちづくりツアー2020 in autumn

9月募集受付開始

(第3回目) 10月17日 (土) ~ 18日 (日)

(第4回目) 10月29日 (木) ~ 30日 (金)

(第5回目) 11月7日 (土) ~ 8日 (日)

※各回同行程 (1泊2日)

※参加費無料 (現地までの交通費、宿泊費、食費等は実費)

※各回定員8名

令和2年度の新たな取り組み

飛騨市広葉樹のまちづくり学校の開校

飛騨市

広葉樹のまちづくり学校

「広葉樹のまちづくり学校」は、飛騨市が広葉樹活用を軸とした持続可能な地域づくりに挑戦する人材育成のため、飛騨地域の実践者が互いに学び合い、連携できる関係性をつくることを目的とした実践型のスクールです。

[お申込はこちら](#)

【 カリキュラム 】

2020.09.24 (木) ~25 (金)	飛騨市の広葉樹のまちづくり
2020.10.22 (木) ~23 (金)	価値の高い広葉樹の森づくり
2020.11.19 (木) ~20 (金)	広葉樹の流通と製材乾燥
2020.12.21 (月) ~22 (火)	広葉樹の建築と家具への利用
2021.01.21 (木) ~22 (金)	広葉樹の多様な可能性
2021.02.24 (水) ~25 (木)	広葉樹の新しい価値の創造

飛騨市をフィールドに広葉樹の施業、流通、製材、加工、販売の流れを学びます。また、いま行われている挑戦をそれぞれ共有し、人とのつながり・相互理解を深めることで、飛騨市の広葉樹活用について具体的に考え実践できる人材の育成を目指します。

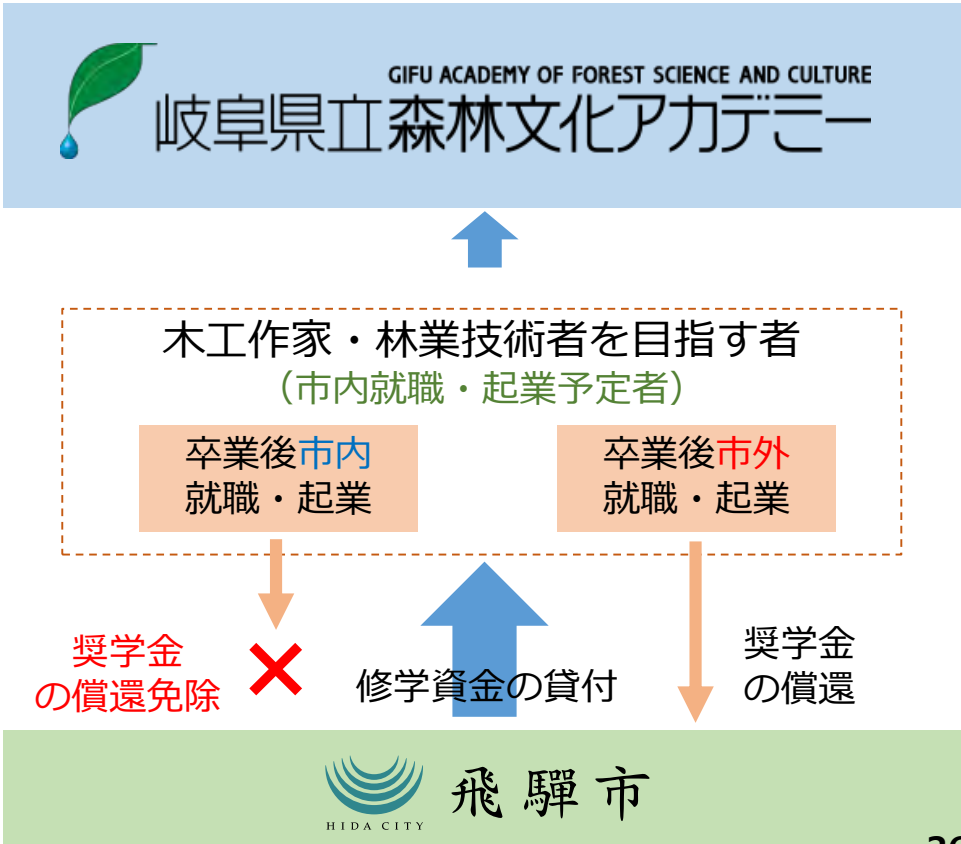
令和2年度の新たな取り組み

林業及び木工の担い手確保を目的とした修学資金貸付制度の創設

岐阜県立森林文化アカデミーと包括連携協定を締結し、アカデミーに入学する生徒に市独自の修学資金を貸付するとともに、卒業後、市内林業事業体や木工事業所等の関連企業に就職もしくは同業種において起業する方については修学資金の償還を全額免除することで、市内における林業技術者及び木製品の作り手（木工作家）の確保を目指します。



岐阜県立森林文化アカデミーとの連携協定締結式（2020.6.9）



令和2年度の新たな取り組み

飛騨市広葉樹活用コンシェルジュの配置

市内の関係者（素材生産者、製材事業者、木製品企画・開発・製造事業者、飛騨市等）との連携・協働により、飛騨市及び飛騨地域の広葉樹の新たなサプライチェーン構築に必要な各種企画、調整、営業、実需者とのマッチング等事業支援の役割を担います。

飛騨市広葉樹活用コンシェルジュ

おいかわ もとき
及川 幹 (R2.4.1着任)



おわりに…

飛騨市のシンボルマークである「市章」は、古川町、河合町、宮川町、神岡町の4町をつなげる清らかな水がモチーフとなっていますが、その源は市面積の93%を占める豊かな森林です。

また、飛騨市が全国に自慢できる和牛ブランドに成長した「飛騨牛」、食味分析コンクール国際大会で金賞を受賞し全国トップブランドに急成長中の「飛騨の米」、『清流めぐり利き鮎会』で準グランプリを2度も獲得している「飛騨清流みやがわ鮎」、様々な国際大会での受賞が続く「飛騨の酒」に共通しているのは、飛騨市の広葉樹天然林から湧き出るミネラル豊富な水です。

飛騨市は今後も引き続き、価値の高い森をつくりながら広葉樹の新たな価値を生み出し、地域の新たな経済循環の創出と市民の豊かで質の高い生活の実現を目指す「広葉樹のまちづくり」に取り組んでいきます。

